

宮村治雄教授年譜及び業績目録

年 譜

- 一九四七年 三月二二日 滋賀県長浜市に生まれる
- 一九六五年 三月三一日 滋賀県立虎姫高等学校卒業
- 一九六五年 四月一日 東京大学文科Ⅰ類入学
- 一九六七年 四月一日 東京大学法学部政治コース進学
- 一九六九年 五月三一日 東京大学法学部卒業
- 一九六九年 六月一日 東京大学大学院法学政治学研究科修士課程進学
- 一九七一年 三月三一日 同 修了（法学修士）
- 一九七一年 四月一日 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程進学
- 一九七四年 九月三〇日 同 修了（法学博士）
- 一九七四年 四月一日 立教大学法学部助手
- 一九七五年 三月三一日 同 辞職
- 一九七五年 六月一日 東京都立大学法学部助教授
- 一九八九年 一月一日 東京都立大学法学部教授
- 一九九一年 四月一日 東京都立大学評議員（一九九五年三月三一日まで）

一九九七年	四月一日	東京都立大学評議員(二〇〇一年三月三十一日まで)
二〇〇〇年	八月一日	東京都立大学法学部長代行(二〇〇一年三月三十一日まで)
二〇〇一年	四月一日	東京都立大学法学部長(二〇〇三年三月三十一日まで)
二〇〇五年	三月三十一日	東京都立大学退職
二〇〇五年	四月一日	成蹊大学法学部教授
二〇〇六年	四月一日	成蹊大学学生部長(二〇〇八年三月三十一日まで)
二〇一二年	三月三十一日	成蹊大学法学部教授退職
二〇一二年	四月一日	成蹊大学法学部特任教授
二〇一五年	三月三十一日	成蹊大学法学部特任教授退職

業 績

I. 著書

- 『理学者 兆民』(みすず書房、一九八九年一月) * 1
- 『開国経験の思想史——兆民と時代精神』(東京大学出版会、一九九六年五月) * 2
- 『丸山眞男『日本の思想』精読』(岩波現代文庫 学術42)(岩波書店、二〇〇一年一月)
- 『日本政治思想史——「自由」の観念を軸にして』(放送大学教育振興会、二〇〇五年五月)
- 『戦後精神の政治学——丸山眞男・藤田省三・萩原延壽』(岩波書店、二〇〇九年七月) * 3

II. 論文（解題・解説含む）

「近代日本の保守主義思想——鳥尾小彌太と西村茂樹を中心に」（修士論文） 一九七〇年二月

「中江兆民研究序説——『兆民』の哲学」（博士論文） 一九七四年九月

「『諷刺家兆民』 1・2」

『月刊百科』No.157 一九七五年十月、No.159 一九七五年十二月（*2に収録）

「中江兆民の思想（一）——その共感と反発の構造について」

『東京都立大学法学会雑誌』第19巻第1号、一九七八年八月

「『理学者』兆民——その思想的考察」

『東京都立大学法学会雑誌』第21巻第2号、一九八一年三月（*1に修正加筆して収録）

（一部加筆修正して、『創文』第221号、一九八一年六月に掲載）

「中江兆民と『ルソー批判』」

『季刊日本学』第4号、一九八四年四月（*1に修正加筆して収録）

「明治パトリオティスムス覚書——訳語の歴史をてがかりに」

『国語通信』第264号、一九八四年四月（*1に修正加筆して収録）

「平民主義とイロニー」

『中江兆民全集第九巻 月報』岩波書店、一九八四年七月（*1に修正加筆して収録）

「中江兆民における『ルソー』と『理学』——『理学鉤玄』の成立過程の「考察」

『東京都立大学法学会雑誌』第28巻第1号、一九八七年七月（*1に修正加筆して収録）

「馬場辰猪における『社会』の現像」

『馬場辰猪全集第三巻 月報』岩波書店、一九八八年三月（*2に収録）

「『シヴィル』器械」から「土木」まで―久米邦武『米歐回覧実記』再考」

『みすず』第329号、一九八八年六月（*2に収録）

「中江兆民と『実質説』―『理学鉤玄』巻之三の典拠をめぐって」

『東京都立大学法学会雑誌』第29巻第1号、一九八八年七月（*1に修正加筆して収録）

「『御誓文』と『公議弁』の間―『維新の精神』をめぐって」

『みすず』第332号、一九八八年十一月（*2に収録）

（後に、福沢諭吉協会『福澤諭吉年鑑』第17号、一九九〇年に再録）

「梁啓超の西洋思想家論―その『東学』との関連において」

『中国―社会と文化』第5号、一九九〇年六月（*2に収録）

「中江兆民『非開化論』」（校注及び解説）

加藤周一・丸山眞男編『翻訳の思想（日本近代思想大系第15巻）』岩波書店、一九九一年九月

「『開化』と『革命』―日本におけるフランス革命」

田中治男他編『フランス革命と周辺国家（歴史と社会12）』リプロボート、一九九二年六月（*2に収録）

「自由主義如何―陸羯南の政治思想」

溝口雄三他編『近代化像（アジアから考える（5））』東京大学出版会、一九九四年六月（*2に収録）

「戦後天皇制論の諸相―『自由』の内面化をめぐって」

『戦後思想と社会意識（戦後日本占領と戦後改革第3巻）』岩波書店、一九九五年九月、27-52頁（*3に修正加筆して収録）

「解題」

『維新の精神（藤田省三著作集4）』みすず書房、一九九七年五月、201-210頁（*3に収録）

〔解題〕

『異端論断章（藤田省三著作集10）』みすず書房、一九九七年七月、141-158頁（*3に収録）

〔解題〕

『天皇制国家の支配原理（藤田省三著作集1）』みすず書房、一九九八年三月、313-339頁（*3に収録）

〔解題〕

『丸山眞男講義録（第一冊）日本政治思想史1948』東京大学出版会、一九九八年五月、265-292頁（*3に収録）

〔解題〕

『丸山眞男講義録（第二冊）日本政治思想史1949』東京大学出版会、一九九九年五月、199-227頁（*3に収録）

『東洋のルソー』素隠—兆民そしてトルコ・朝鮮・中国』

『思想』第932号、二〇〇一年十一月、93-117頁

『会議弁』を読む—「士民の集会」と「兵士の訓練」序論』

福沢諭吉協会『福澤諭吉年鑑』第28号、二〇〇一年十二月、57-86頁

『天皇制論の遺産』

鷺見誠一編『転換期の政治思想—20世紀からの問い』創文社、二〇〇二年九月、236頁

〔解説〕

萩原延壽『自由の精神』みすず書房、二〇〇三年九月、371-387頁（*3に収録）

『或る普遍主義者の戦後経験—追悼 藤田省三』

『思想』第953号、二〇〇三年九月、58-69頁

『中江兆民』選挙人めざまし』

『現代思想』別冊「ブックガイド日本の思想—『古事記』から丸山眞男まで」二〇〇五年六月

〔解説〕

『藤田省三対話集成 3』みずす書房、二〇〇七年五月（*3に収録）

〔解説〕

『萩原延壽集 1 馬場辰猪』朝日新聞社、二〇〇七年十一月（*3に収録）

〔福沢諭吉に於ける「專擅」と「自由」〕

『福沢諭吉年鑑34』福沢諭吉協会、二〇〇七年十二月

〔解説〕

『萩原延壽集 3 陸奥宗光 下』朝日新聞社、二〇〇八年一月（*3に収録）

〔思想史から見た「開国」——「関東御開国」から敗戦まで〕

『成蹊法学』第66号、二〇〇八年一月

〔近代日本とアメリカ——パトリオティズムとの出会いをめぐってⅠⅡ〕

『二〇〇七年度武蔵野市寄付講座 成蹊大学国際教養科目（法学部） 思想としてのアメリカ』二〇〇八年十二月

成蹊大学

〔解説〕

藤田省三・萩原延壽『瘠我慢の精神——福沢諭吉「丁丑公論」「瘠我慢の説」を読む』朝日新聞社、『朝日文庫』、二〇〇八年十一月（*3に収録）

〔ビゴーの中江兆民像を読む〕

『図書』岩波書店 二〇〇九年十二月

〔南原繁と日本国憲法——第九〇回帝国議会議事録を読んで——〕

『南原繁と日本国憲法——天皇制と戦争放棄をめぐって』南原繁研究会編 二〇一二年八月

「東洋のルソー」の政治思想」

『思想』岩波書店 二〇一二年三月

Ⅲ. 書評

「書評：後藤孝夫編『明治大正言論資料10 中江兆民集』」

『エコノミスト』一九八四年四月二四日

「書評：成沢光著『政治のことば―意味の歴史をめぐって』」

『週刊読書人』一九八四年十月十日

「書評：『新知識の共和国』の運命―山室信一『法制官僚の時代―国家設計と知の歷程』」

『思想』第732号、一九八五年六月

「書評：井田輝敏著『近代日本の思想像』」

『エコノミスト』一九九一年十月一日

「書評：松沢弘陽『近代日本の形成と西洋経験』」

福沢諭吉協会『福澤諭吉年鑑』第21号、一九九四年十二月、169-187頁（*2に収録）

「『市民的公共』の原初経験―書評 松崎欣一『三田演説会と慶應義塾系演説会』」

福沢諭吉協会『福澤諭吉年鑑』第25号、一九九八年十二月、109-119頁

「書評：作用観念としての〈戦後〉―三谷太一郎『近代日本の戦後と政治』を読む」

『思想』第903号、一九九九年九月、48-60頁

「『政党』をめぐる「根拠律」への問い―書評 山田央子著『明治政党論史』」

政治思想学会『政治思想研究』創刊号、二〇〇〇年五月、47-53頁

「書評：「差異をめぐる政治」と「普遍的な尊厳をめぐる政治」——米原謙『近代日本のアイデンティティと政治』を読む」

『政治思想学会会報』第15号、二〇〇二年十一月、2-8、21頁

「書評：小林正弥編『丸山眞男論——主体的作為、ファシズム、市民社会』」

『週刊読書人』二〇〇三年五月二日

「書評：丸山眞男著 松沢弘陽・植手通有編『丸山眞男回顧談』上下」

『信濃毎日新聞』他二〇〇六年十一月二六日

「書評：リベラリズムをめぐる「回想」と「思索」——松沢弘陽・植手通有編『丸山眞男回顧談』」

『思想』二〇〇八年五月（*3に収録）

「書評：吉野作造および吉野研究への反問——半世紀を経て（松本三之介『吉野作造』東京大学出版会、二〇〇八年）」『政治

思想研究』第九号 二〇〇九年五月

IV. 短文・辞典項目・エッセイなど

「ある『パーレー本』のこと」

東京都立大学広報委員会編『大学・人・学問——東京都立大学への招待』一九九一年

「三酔人経綸問答」「自由主義」「中江兆民」「民主主義」など（事典項目）

『日本史大事典』全7巻、平凡社、一九九三—一九九四年

「日本政治思想史」（教員からのメッセージ）

東京都立大学法学部事務室『PROFILE 95 東京都立大学法学部』一九九四年七月、9頁

「ある情景」

『図書』第568号、一九九六年十月、24頁（*3に収録）

『会議弁』以後（公共学ワークショップ9）

『創文』第392号、一九九七年十月、141頁

『丸山眞男の初講義』

『UP』第309号、一九九八年七月、16頁

『法学会記念講演会「再考・政治思想の『近代』（一九九九年十二月二十六日 国際交流会館大会議室）」

東京都立大学広報委員会『大学広場』第13号、二〇〇〇年三月二日、3頁

『書』と『書簡』の間』

『福澤諭吉書簡集』月報7、二〇〇二年三月、14頁

『Hours in a Library』

『りぐる』no.104 東京都立大学図書館だより、二〇〇三年一月

『思想史研究の三準則』

『みすず』（追悼 藤田省三）第510号、二〇〇三年十月、18-20頁

『宮村治雄』開国経験の思想史』東京大学出版会、一九九六年』

黒田日出男・加藤友康・保谷徹・加藤陽子編『日本史文献事典』弘文堂、二〇〇三年十二月、1211頁

『書』と『書簡』のはざまで—『福澤諭吉書簡集』から『梁啓超年譜長編』へ』

『図書』第658号、二〇〇四年二月、22-25頁

『ヘアアジアと私』『脱亜論』の背後にあるもの』

『CAPS Newsletter - The Center for Asian and Pacific Studies, Seikei University, No.87. July, 2005』11005

年六月

『巻頭言——人口逡減期における人間と社会についての偶感』

『成蹊大学学生相談室年報』第12号、二〇〇六年十二月

「丸山真男の「思想史の思想史」」丸山真男記念比較思想研究センター読書会

『丸山真男記念比較思想研究センター報告』第2号 東京女子大学丸山真男記念比較思想研究センター、二〇〇七年三月

「私の三冊——『三酔人経綸問答』『政談』『文明論之概略』」

『図書』岩波文庫創刊80年記念号 二〇〇七年四月

「歴史家・萩原延壽の世界——「出会い」を軸に日本近代史描く」

『論座』二〇〇七年十一月

「自由」の観念をめぐる比較思想史」「比較思想A」丸山真男記念比較思想研究センター公開授業 『丸山真男記念比較思想

研究センター報告 第3号』二〇〇七年十二月

「近代日本の「開国経験」——福澤諭吉と中江兆民——」二〇〇七年度成蹊大学春期公開講座『日本史の蹊』二〇〇七年度

成蹊大学公開講座講演録（二〇〇七年度春期）二〇〇八年三月

「自著紹介『戦後精神の政治学』」

『学内広報 成蹊大学』二〇一二年四月

「ルソー生誕200年記念会余聞」

『ふらんす』特集「ルソー生誕300年」二〇一二年六月（白水社）

「『理学者兆民』補遺一則」

『日本古書通信』二〇一四年十二月（日本古書通信社）

V. 座談

「藤田省三小論集『戦後精神の経験Ⅰ・Ⅱ』及び『(新編)天皇制国家の支配原理』を編集して―飯田泰三・宮村治雄さんに

聞く」(『影書房通信』第10号、一九九六年三月二〇日) 110頁

狭間直樹・佐藤慎一・宮村治雄「座談会 東アジアの近代と梁啓超」上・下

『みずび』第470号、二〇〇〇年五月) 324頁、(同、第471号、二〇〇〇年六月) 42-59頁

VI. 報告

「兆民における「ルソー」と「理学」―『理学鉤玄』の成立過程の一考察」

(一九八七年二月 北海道大学法学部政治研究会)

「『兆民全集』の刊行と近代日本政治思想史研究」

(一九八九年二月 北海道大学文学部法学部合同研究会)

「近代日本における土地私有否定論―山室信一氏の報告をめぐって」

(一九九〇年度 日本政治学会 於熊本大学)

「中江兆民と『立法』―『民約論』と『民約訳解』の間」

(一九九一年度 政治思想研究会報告 於…東京大学) (*2に収録)

「『問題史としての思想史』の射程―丸山眞男『忠誠と反逆』を読む」

(一九九三年七月 北海道大学法学部政治研究会)

「ナショナリズムと自我構造―丸山眞男覚書」

(一九九五年六月三日 成蹊大学アジア太平洋研究センター「民族と国家」研究会)

「思想上の「開国」問題―丸山眞男の場合」

- (一九九七年七月 北京国際儒学シンポジウム)
- 「書評 三谷太一郎『近代日本の戦争と政治』(岩波書店、一九九七)」
- (一九九八年七月十一日 成蹊大学思想史研究会)
- 「討論」
- (二〇〇〇年五月 政治思想学会)
- 「丸山真男の徳川幕府藩体制論——48年度講義と66年度講義との間——」(二〇〇一年七月一四日 成蹊大学 思想史研究会
一〇〇回記念シンポジウム)
- 「日本政治思想史における「自由」問題」
- (二〇〇五年三月一九日 東京都立大学大学院政治学総合演習五〇周年)
- 「丸山真男の「思想史の思想史」——「近代日本における思想史的方法の形成」を読む」
- (二〇〇六年三月二二日、四月一九日、五月一七日 平成十七年度東京女子大学丸山真男文庫読書会)
- 「Comments on Papers of prof. Bershey, Sun, Seifert」
- (二〇〇六年七月、IPS A世界政治学会 Hukuoka)
- 「ルソーと中江兆民——『社会契約論』の読解をめぐる」
- (二〇〇六年十月一日 中央大学大学院文学研究科特別セミナー)
- 「心学」と「自由」問題——鈴木正三から植木枝盛まで——」
- (二〇〇六年十月 北海道大学政治研究会)
- 「思想史から見た「開国」——幕末と敗戦」
- (二〇〇七年三月 横浜ロータリークラブ)
- 「福沢諭吉に於ける「専擅」と「自由」」

- (二〇〇七年九月二九日 福沢諭吉協会土曜セミナー 於交詢社)
- 「近代日本とアメリカ」 「出会い」のもたらしたもの」
- (二〇〇七年十一月七日 武蔵野市寄付講座・成蹊大学国際教養科目公開授業)
- 「近代日本とアメリカⅡ」 「パトリオティズム」をめぐって」
- (二〇〇七年十一月一四日 武蔵野市寄付講座・成蹊大学国際教養科目公開授業)
- 「松沢弘陽・植手通有編『丸山真男回顧談』を読む」
- (二〇〇七年十二月二二日 成蹊大学政治学研究会・思想史研究会)
- 「丸山真男はなぜ読まれるのか」
- (二〇〇八年七月一日 熊本崇城大学教養講座講演)
- 「福沢諭吉『瘠我慢の説』を読む」
- (二〇〇八年十二月十三日 福沢諭吉協会読書会 於慶応大学)
- 「思想史雑談」
- (二〇一〇年十月二二日 成蹊大学政治学研究会)
- 「『東洋のルソー』の政治思想」
- (二〇一一年九月二五日 日本・韓国政治思想学会国際会議)
- 「中江兆民『三酔人経綸問答』を読む」
- (二〇一二年三月一〇日 銀蹊会講演会)
- 「『経綸』と『理学』の間——『三酔人経綸問答』を読む」
- (二〇一五年二月二二日 成蹊大学アジア太平洋研究センター「ワークショップ アジアの思想を読む」：中江兆民を中心に)

VII. 編集

- 藤田省三『戦後精神の経験Ⅰ』影書房、一九九六年二月（飯田泰三・宮村治雄編）
- 藤田省三『戦後精神の経験Ⅱ』影書房、一九九六年三月（飯田泰三・宮村治雄編）
- 藤田省三『(新編) 天皇制国家の支配原理』影書房、一九九六年三月（飯田泰三・宮村治雄編）
- 『藤田省三著作集』全10巻、みずず書房、一九九七年—一九九八年（飯田泰三・宮村治雄・他編）
- 「藤田省三 著作目録」（飯田泰三・宮村治雄・本堂明編）
- 『戦後精神の経験Ⅱ（藤田省三著作集8）』みずず書房、一九九八年十月、737, 765頁
- 『丸山眞男講義録』全7冊、東京大学出版会、一九九八—二〇〇〇年（飯田泰三・平石直昭・宮村治雄・渡辺浩編）
- 藤田省三「絶筆」1—10（松沢弘陽・宮村治雄編）
- （『みずず』第467—475号、二〇〇〇年十一月）

参 考

- 〔石田雄〕 宮村治雄「中江兆民研究序説—『兆民』の哲学」（法学博士 博法53号）
- 東京大学『博士学位論文：内容の要旨および審査の結果の要旨 課程修了によるもの（課程博士）』昭和四九年度、129-134頁
- 松沢弘陽「記」
- 『北海道大学政治研究会会報』第八号、一九八七年三月
- 「著者訪問—「理学者 兆民」を書いた宮村治雄さん」
- 『北海道新聞』一九八九年一月二三日
- 松永昌三「書評：宮村治雄著『理学者 兆民』」

『図書新聞』一九八九年三月四日

HIRAISHI Naoaki, "Book Review: Nakae Chomin as a Philosopher: A Case Study in the Intellectual History of Japan's Opening," *The Japan Foundation Newsletter*, vol.19, No.3., Dec. 1991

村上幸子「読書会「会議弁」を読む」に参加して

福沢諭吉協会『福澤手帖』第100号、一九九九年三月、21-25頁

Tessa MORRIS-SUZUKI "Book Reviews: Kaikoku Keiken no Shisoshi: Chomini no Jidai Seishin (The Experience of Opening Japan: Nakae Chomin (1847-1901) and the Spirit of his Age), by Miyamura Haruo," *Social Science Japan Journal*, vol. 2. no.2. Oxford U.P. Oct. 1999. pp. 294-298.

「著者に聞く 宮村治雄『丸山真男『日本の思想』精読』

『週刊エコノミスト』毎日新聞社、二〇〇一年四月十日、108-109頁

J.Victor Koschmann "Book Reviews": Maruyama Masao, Nihon no Shiso Seidoku (An Explication of Japanese Thought by Maruyama Masao) by Miyamura Haruo, *Social Science Japan Journal*, vol.5. no.2. Oxford U.P. Oct., 2002. pp. 267-270

成沢光「宮村治雄『新訂日本政治思想史——「自由」の観念を軸にして』を読む」

『思想』二〇〇六年六月

関明（銀蹊20期会）「講演会「中江兆民のこと——ある思想的対話——」

『銀蹊』会報第10号、二〇一二年四月

相原耕作「井田進也・宮村治雄先生ワーク・ショップ「アジアの思想を読む——中江兆民を中心に——」

『CAPS Newsletter - The Center for Asian and Pacific Studies, Seikei University, No.126. April, 2015』